

<人間主語>が「ひとをつくる」

「人間主語＋が＋連体修飾＋ひとをつくる」
→連体修飾が示す関係を持てる人との対人関係を築く

「ひとまず、**なかのいいひとをつくる**と運がよさそうです」

「愛しているけど、**ふたりは別々に愛するひとをつくる**」

「**たいせつなひとをつくる**とまたうしなうのがこわかったの」

「**教えてもらえるひと・相談に答えてくれるひとをつくる**事も大事です」

「もうこれ以上、大事なひとをうしなうのも、これから**大事なひとをつくる**のももう沢山だと思った」

「今後、**ステディなひとをつくる**なら、制服があるひとにしよっと」



「いいひとをつくる」

「人がいい」という意味ではなく、「恋人」という意味になる

A:「無理に好きなひとをつくるわけでもないんでしょ？」

B:「結局、いいひとをつくるって、難しいんですよ」

「16ならたくさん遊んで、いいひとをつくれればいいさ」

対句I

(「ひと」が<無生物>をつくり、<無生物>が「ひとをつくる」)

「ひとが安全をつくり、安全がひとをつくる」

「ひとがまちをつくり まちがひとをつくる」

「『ひと』が会社をつくり、会社が『ひと』をつくる」

「そして、ひとがまちをつくるとともに、まちもひとをつくるわけですから、まちの潜在能力を開発することが実はひとの潜在能力の開発にもつながっているという発想であります」

対句II

(<無生物> が「ひと」をつくり、「ひと」が<無生物>をつくる)

「**社会**がひとをつくるのか、それとも**ひと**が社会をつくるのか」

「まさに『**住宅**はひとをつくる』『**ひと**はまちをつくる』である」

「**会社**がひとをつくるのではなく、**ひと**が会社をつくる」

「**空気**がひとをつくるのか **ひと**が空気を生み出すのか その両方が混じりあることで、…」



慣用表現:「～をつくる会」

里山の風景をつくる会

市民の市長をつくる会